

2020年8月19日

報道関係各位

宮古島市
沖縄県
スカイマーク株式会社
下地島エアポートマネジメント株式会社

スカイマーク「羽田-宮古（下地島）線」が運航開始 ～羽田発着枠政策コンテストによる暫定運航・トライアル運航認可路線～

2020年10月25日より、スカイマーク株式会社（以下、スカイマーク）が「羽田-宮古（下地島）線」を新規開設し、毎日1往復運航することを決定しました^{※1}のでお知らせします。

本路線は、宮古島市、沖縄県、スカイマークと下地島エアポートマネジメント株式会社（以下、SAMCO）の4者が国土交通省による「羽田発着枠政策コンテスト」に提案応募したもので、2021年夏ダイヤ～冬ダイヤ（2021年3月末～2022年3月末）の1年間についてはトライアル運航期間（評価対象期間）として運航が認められており、同期間前後の2020年冬ダイヤ（2020年10月末～2021年3月末）及び2022年夏ダイヤ（2022年3月末～2022年10月末）の両期間についても、準備等のための暫定運航を行うことが認められています。

「羽田発着枠政策コンテスト」では、政策コンテスト枠（5便分）の配分方針が示されておりますが、本路線は5位の羽田-三沢線に次ぐ6位と評価されています。羽田-三沢線と本路線の総得点が僅差であったため、両者にてトライアル運航を実施し、その実績について再度評価が行われ、いずれかの路線のその後の運航が認められることとなります。^{※2}

下地島を含む宮古諸島は沖縄本島から南西約280kmに位置し、透明度が高く美しい海など、国内屈指のリゾート地として多くの観光客を魅了しております。下地島から宮古島までは橋で繋がれており、下地島空港は宮古島市街地から約20km西側（車で約25分）に位置しております。昨年3月にみやこ下地島空港ターミナルが開業して旅客便の受け入れが可能となり、宮古諸島の第2の玄関口として運営が行われています。

本路線につきましては、共同でコンテストに応募した宮古島市、沖縄県、スカイマーク、SAMCO、さらには地元経済・観光団体が一丸となって利用促進に取組み、地域活性化に努めて参ります。



▲下地島空港 鳥瞰写真（北側より）



▲みやこ下地島空港ターミナル 鳥瞰写真



▲スカイマーク ボーイング 737-800

※1 国土交通省の認可を前提としているものです。

※2 国土交通省 令和2年5月14日付報道発表： https://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04_hh_000216.html

■羽田-宮古（下地島）線について

就航開始：2020年10月25日(日)

就航路線：羽田空港＝下地島空港

就航便数：毎日1往復

就航機材：ボーイング 737-800 型旅客機（177人乗り）

運航ダイヤ（2020年10月25日(日)～2021年3月27日(土)）

☆羽田→宮古（下地島）

便名	運航日	運航時刻
SKY613	毎日運航	11:05 - 14:35

☆宮古（下地島）→羽田

便名	運航日	運航時刻
SKY618	毎日運航	18:45 - 21:25

■宮古島市における新型コロナウイルス感染拡大防止の取組みについて

宮古島市では、市と宮古島観光協会および観光関連事業者で構成する宮古島リカバリープロジェクト委員会において、業種ごとの感染症予防ガイドラインを制定し、ガイドラインに従って対策を講じた事業所には「新型コロナウイルス感染予防実施協力事業所ポスター」を表示するなど、観光で訪れるお客様と住民の双方が安心できる受入体制を整えるための取組みを進めています。

また、観光客と住民それぞれに向けて感染予防のためのマスク着用を呼びかけるポスターの制作・掲示、空港等でのマスク配布、観光関連事業所に設置する消毒液調達などにも取り組んでいます。



▲協力事業所ポスター



▲マスク着用啓蒙ポスター
(観光客向け/島民向け)

■「みやこ下地島空港ターミナル」について

1. 概要

所在地：沖縄県宮古島市伊良部字佐和田 1727 番地

敷地面積：32,586 m²

規模・構造：RC造+CLT造・地上1階建

空港施設：チェックインカウンター数 12 箇所、搭乗ゲート 3 箇所、

到着ロビー 国際線・国内線各 1 箇所

飲食店 2 店舗、物販店 3 店舗（免税店含む）、

バス乗り場、タクシー乗り場、レンタカー受付カウンター、ATM



▲空港の位置

2. 「空港から、リゾート、はじまる。」をコンセプトとした空間づくり

キーコンセプトを「空港から、リゾート、はじまる。」と掲げ、空港利用者や航空会社の視点に立った施設づくりに取り組んでいます。空港に到着した瞬間にリゾート体験のはじまりを感じてもらえるよう、豊かな緑や自然の光を取り込み、航空機への搭乗直前まで利用者がくつろげる空間を演出します。

国際線を受け入れる専用施設を設け、スムーズな入国・出国動線を確保する等、利用者の動線を意識した設計となっており、使い勝手の良さを追求しています。



▲国内・国際線共通旅客専用ラウンジ水盤